

No.18 『岐阜県岐阜市商工案内図』
 作成年：1925（大正14）年
 サイズ：55×79cm
 発行者：松村順雄著 吉田印刷(印刷)

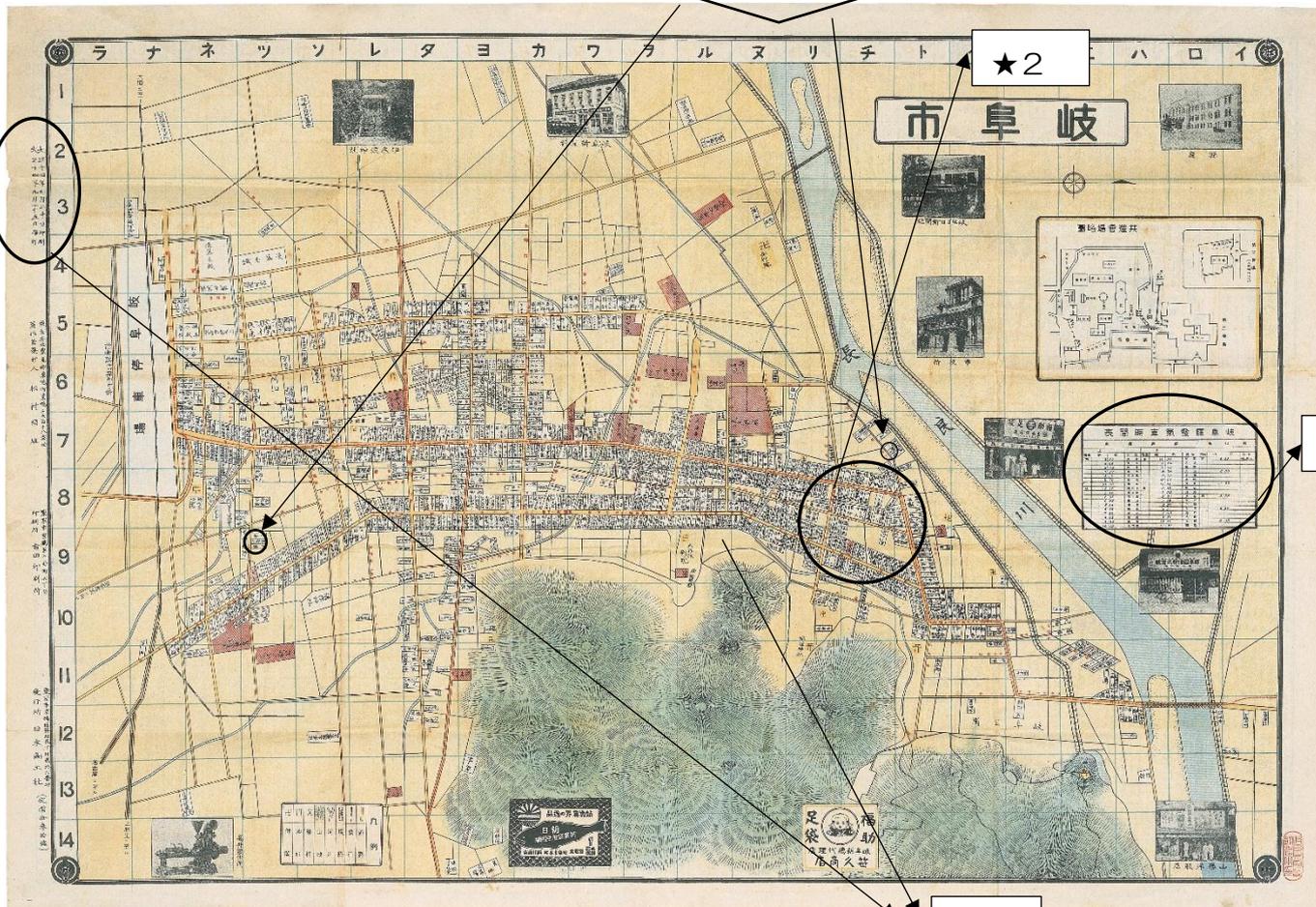


西川商店



山勝洋服店

地図を作成するにあたり協賛している店が写真や看板でのせられている。西川商店や鮎商品を宣伝している。



★1

★3

★2

【解説】

戦国城下町の歴史をもち商人町として栄えた岐阜町、その南4kmに新たに加納城下町が建設され、両者は鵜飼で捕った鮎を加工した鮎ずしを献上するルート御鯰街道で結ばれていた。2つの中核的な町が接近して併存していたことが当時の岐阜の特徴である。

大正12年「都市計画法」施行の指定を受けた岐阜市は、2つの町を中心として、交通網の充実、新興産業の発展、さらに岐阜市の伝統的文化を生かし、発展的大都市を形成しようと考えた。

この地図は「都市計画法」施行の指定を受け、商店街として栄えていた岐阜町を中心として、当時の岐阜市がどのような発展をしていたのか、またこれからの岐阜市をどのように発展させようとしていたのかを考える資料として活用できる資料である。

★1 岐阜町の歴史

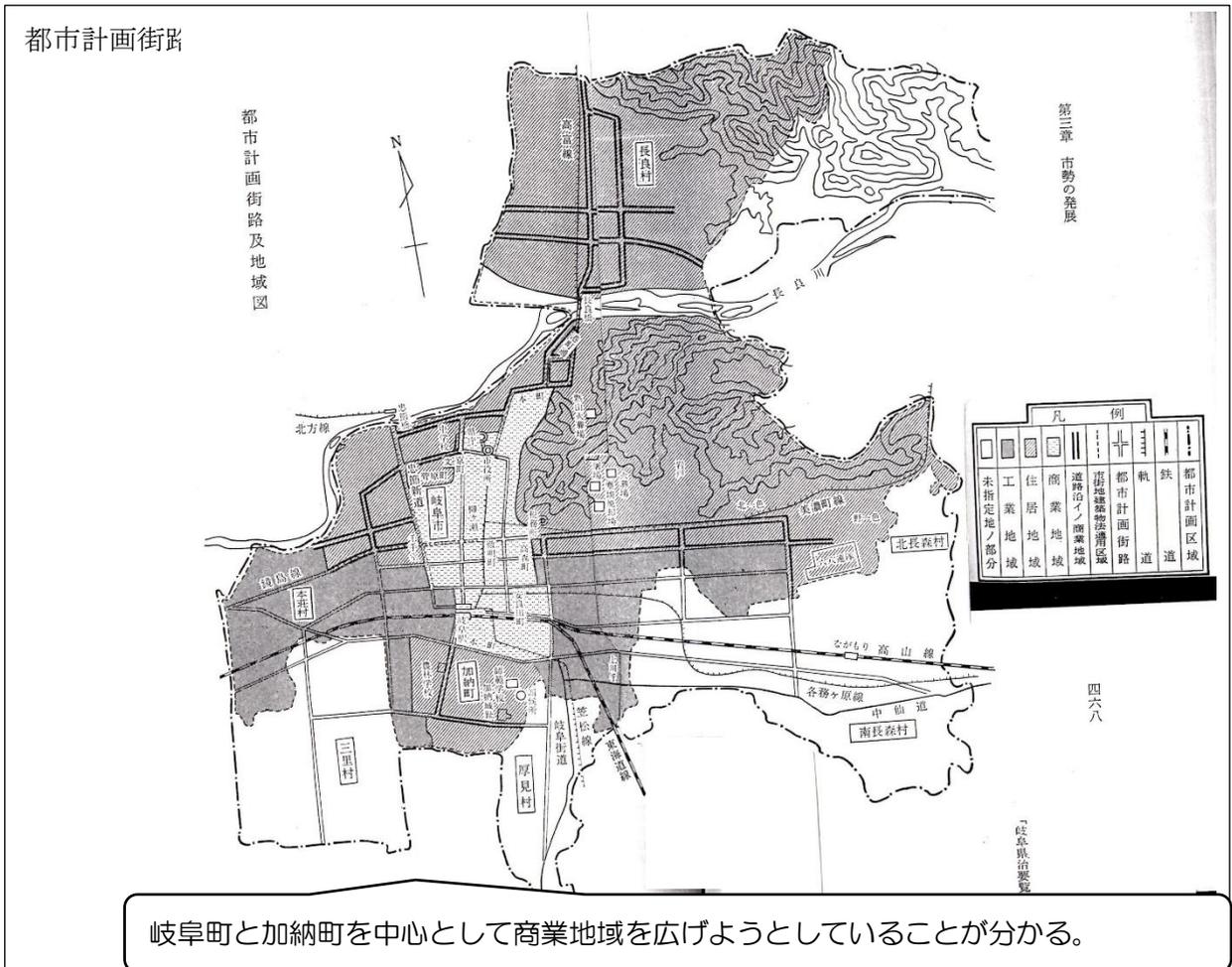
斎藤道山により建設された井口城下町。百曲道には大桑の町人を、南側の七曲道には井口の町人を集めて町を建設し、城下町を作ったといわれる。この城下町も関ヶ原の合戦の前哨戦で岐阜城は落城し、当初幕府領となり、後に尾張藩領の商人の町として残る。長良川は海上交通の要点でもあり、この岐阜町は様々な交易の形態を見ることのできた町であるが、町自体は商店が軒を並べて賑わう地域であり、当時の岐阜を支える商店街として発展していたといえる。

★2 岐阜市の考えた都市計画

○金町線（現在の平和通り）と徹明長良線を設け「市ノ中枢地区ヲ南北二貫キ長良川ヲ越エテ遠ク都市計画ノ北端ニ至ル大幹線を作ル」ことこそが、都市計画の最重点として考えていた。つまり岐阜駅から南北に広がる路面電車の充実には①岐阜町と加納町をつなぐ幹線を充実させることで人・物資の流れを盛んにすること、②岐阜市外の観光客を岐阜市中心部（特に観光地長良川界隈）に呼び込むことを達成するために重要課題であった。

○岐阜駅周辺に広がりつつあった軽工業をさらに拡大するためにも、大阪と東京を結ぶ衛星的地位として存在する名古屋と同様、岐阜も隣接地域の恩恵を受けつつ岐阜市の発展をしようと考えていた。

【都市計画街路及地域図】と比べる。
岐阜市史通史編 近代 1972



★3 岐阜駅時刻表

1886 年中山道線建設用資材運送の目的から東海道本線が作られ、1900 年初期には岐阜市の発展とともに旅客・貨物とともに輸送量が拡大した。時刻表の行き先からみても、大阪、東京の2大都市を結ぶ中継都市として岐阜市を捉えていること、また北陸方面への物資の輸送中継としてとしてとらえていることが分か

【利用の例】

- 小学校3年 「わたしたちのまち みんなのまち」と関わらせて、町の変遷を理解できる。
 - 昔の岐阜市の中心が岐阜町周辺であることを知ることで、岐阜市の町の変遷が分かる。
 - 商店街が立ち並ぶ様子を今の様子と比べて、商店街のにぎわいについて考えることができる。
- 小学6年生 「3武将の台頭」の学習に関わらせて、戦国時代から城下町として栄えたことを理解できる。
 - 斎藤道山や織田信長の作った城下町が「井口」として残り、岐阜市の中心的商人の町となったこと、また岐阜市の発展を担ったことなどを知る手掛かりになる。